

西京の美しいみどり

大きな樹を訪ねて歩く

Trees give us a peace of mind.



はじめに

京都市西京区は交通の要所として、古くから栄えた地域です。歴史ある街道や神社仏閣も多くあります。そんな風土の中で大きな木は、地域の方々によって見守られ親しまれ育てられてきました。

この冊子は、大きな木を、平成 28~30 年に区民の方々と共に訪ねて歩いた記録です。今回は、古い市街地や集落を含む周辺地域を歩きました。

現地解説の講師を神戸教育短期大学教授片山雅男先生にお願いして、多くのことを教えて頂きました。自然環境やそれぞれの木の特徴はもちろん、木にまつわる伝説や、地域で見守られている状況なども学びました。

大きな木を選んだ基準は次のとおりです。

- 歴史のある木
- 背の高い、幹が太い木
- 花がきれいな木
- 地域で話題の木
- 公の場所から普通に見える木

ナナミノキ （蔵泉寺）

雌雄異株。冬の雌木では
赤く美しい実をつける。
名の由来がいろいろある

美しい実

（ナナミノキ）

少し長い実

（ナガノミ）

人に良く知られた

名の実をつける

（ナノミノキ）



コジイ （月読神社）

常緑で大木となるため、日光を遮り、この木の下は下草
が生えにくい。このため、コナラ等のドングリが発芽し
ても育たない。

日陰でも成長できる
シイが群生を作ると
山の遠景は緑だが、
林床は土がむき出し
であり、落葉樹等の
生育を阻む。



エノキ・ムクノキ・ニレ （桂御所第二公園）

夏は緑の木陰で涼をとり、秋は黄葉が美しい。冬は大木であるのに枝先の小枝が細かく、裸木が美しい。



ムクの実 10~12 mm



エノキの実 6~8 mm



かつてエノキの根元にあった
お地蔵さん(2008年11月撮影)

カゴノキ （長峯八幡宮）

陽のあまり当たらない
い湿った所を好む。
幼木の樹皮は暗褐色
でなめらかだが、大
きくなるにつれて、
鱗状に剥がれ、斑模
様となる。鹿の子模
様と似ているのでこ
の名がある。一般の
樹木は幹より枝が細
いが、この木は幹と
変わらない位の太い
枝になる事がある。



長峯八幡宮カゴノキの古木



カゴノキが自生する森は、
小塩山の金蔵寺周辺の傾斜
地にみられる。府の野生動
物保護地区(特別地区)とし
て、大切に保存されている。

植物のおもしろ話

1 ダイオウショウとアカマツの松ぼっくりの大きさを比べる



アカマツ・クロマツの松ぼっくりは約 4～6 cm
ダイオウショウの松ぼっくりは約 12～25 cm
葉も同じように、長さが大きく違う。

2 カゴノキの他にもサルスベリやカリンのように表皮がはがれる木がある

3 道端でよく見かけるアカメガシワ

若葉は紅赤色で、白い紙に強く押し付けると、葉の形がきれいに写しとれる。カシワのように葉に食物をのせるのに使ったことが、名の由来である。



天皇の杜古墳丘の樹木



天皇の杜古墳丘



クサギの実



シャシャンボ



ネジキ



ヤマザクラの花



サカキの花



ヤマハゼ



コナラ



リョウブの花



ソヨゴの花



ソヨゴの実



カキノキ



トウネズミモチの花



ヤブニッケイ